名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

Newsletter

Graduate School of Mathematics, Nagoya University

Vol. 37
2017. DEC.

Newsletterは1冊のボリュームをアップし、年2回の発行となりました。今号では、数学アゴラ、学生プロジェクト、同窓会を中心に、今年7月以降の多元数理科学研究科の活動の様子をお届けします。

「数学アゴラ」、「数学公開講座」開催

2017年8月2日(水)から4日(金)にかけて、「数学アゴラ(夏季集中コース)」が開催されました。昨年度と同様に高大連携の一環として、愛知県教育委員会による「知の探究講座」とタイアップし、全日60名を超える高校生・高校教員を中心とした受講者が参加しました。

また、2017年10月14日(土)、21日(土)、28日(土)の3日間においても、「知の探究講座」とタイアップされた「数学公開講座」が開催され、数学アゴラと同じ教員により、夏の講義内容を別視点から捉えたものや内容を少し発展させた講義が行われました。

名古屋大学に所属する教員による各講義では、講義時間は受講者の皆さんが食い入るように聴講し、休憩時間には講演者や講師へ積極的に質問をする姿が多く見られました。一日の講義が終了した後の「講師への質問時間」には、講師を務める多元数理科学研究科の博士研究員や博士後期課程の学生のもとへ、多くの受講者が質問を行い、講義の理解と交流を深めているようでした。

今年、本講座を担当し、参加された受講者の皆様のうち、ひとりでも多くの方に数理科学の有する魅力を知っていただける機会となるよう、来年もより良い公開講座にしていけるよう尽力したいと強く感じました。

最後になりましたが、ご講演いただきました教員の皆様、参加者の皆様、講師の皆様、アルバイトの皆様、本講座をご支援いただきました皆様へお礼申し上げます。ありがとうございました。(大野由美子)

〈 講師からの感想 〉

一般受講生の質疑応答をはじめとし、主に知の探究講座の受講生に対し、講義内容の補足、発表テーマ選択の補助、発表へのアドバイスなどを行いました。受講生は貪欲に知識を吸収し、よりよい発表のために努力をする姿勢を見て自分を振り返る良い機会となりました。(藤谷拓哉(D2))

私たちは、アゴラや公開講座の参加者からの質問への対応から、知の探究講座におけるテーマ決めの補助や発表指導を行いました。講座の合間や講師への質問時間では時間一杯議論を交わし、数学に対する強い熱意を感じました。参加者にとって刺激の多い3日間になったのではないでしょうか。(青木利隆(D1))

講義の様子1

講義の様子2

質疑応答の様子

「数学アゴラ」プログラム

講演者		タイトル
泉 圭介	助教	「科学的宇宙観の歴史」
伊藤 敦	助教	「ピックの公式」
鈴木 悠平	助教	「Banach-Tarskiのパラドックス」

日 時	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)	8月21日(月)
9:30~11:00	泉 圭介 その1	伊藤 敦 その2	鈴木 悠平 その3	総合演習日 ・講師への質問等 ・「知の探究講座」受講者のための講座別発表会準備
11:15~12:45	伊藤 敦 その1	鈴木 悠平 その2	泉 圭介 その3	
13:45~15:15	鈴木 悠平 その1	泉 圭介 その2	伊藤 敦 その3	
15:30~17:00	質問時間*	質問時間*	質問時間*	

*質問時間の講師は多元数理科学研究科の学位取得者または後期課程の学生です。

「数学公開講座」プログラム

講演者		タイトル
泉 圭介	助教	「重力理論と宇宙」
伊藤 敦	助教	「ピックの公式」
鈴木 悠平	助教	「Banach-Tarskiのパラドックス」

日 時	10月14日(土)	10月21日(土)	10月28日(土)
9:30~11:00	泉 圭介 その1	伊藤 敦 その2	鈴木 悠平 その3
11:15~12:45	伊藤 敦 その1	鈴木 悠平 その2	泉 圭介 その3
13:45~15:15	鈴木 悠平 その1	泉 圭介 その2	伊藤 敦 その3
15:30~17:00	質問時間*	質問時間*	質問時間*

*質問時間の講師は多元数理科学研究科の学位取得者または後期課程の学生です。

学生プロジェクト中間報告

学生プロジェクトの活動期間も残すところあと数カ月になろうとしています。
各プロジェクトのこれまでの活動報告、あるいは今後の予定をお伝えいたします。(佐藤公美)

研究課題　作用素環論とテンソル圏についての研究
代表者名　澤田友佑(D2)

コペンハーゲン大学にて

8月にコペンハーゲンで行われた研究集会Young Mathematicians in C*-algebrasや奈良で行われた関数解析研究会などに出席し自身の結果について講演を行った。その際他の研究者と意見交換とディスカッションを行い、現在考えている問題についてなど、今後の研究のために役立つ情報を収集した。

また、2月の終わりから3月の初めにかけて北海道で行われる総合若手研究集会にて自身の最新の結果について発表する予定であり、その研究集会においてさらに見聞を広げ来年の学位論文執筆につなげることを目標とする。

研究課題　様々な多重ゼータ関数の特殊値についての研究
代表者名　門田慎也(D3)

セミナーの様子

我々はこれまでに、5月、9月に行われた「関西多重ゼータ研究会」、8月に行われた「第11回福岡数論研究集会」、10月に行われたRIMS共同研究(公開型)「解析的整数論とその周辺」などの研究集会に参加してきました。また、いくつかの研究集会においては、研究成果の発表も行い、多くの方から今後の研究の進展につながる有益な意見・コメントをいただき、他大学の先生や院生とディスカッションをすることで新しい視点で自身の結果を解釈することができるなど、非常に有意義な時間を過ごすことができました。特にRIMSにおける解析的整数論の研究集会においては、自身の研究内容とは少し異なる研究に関する最先端の結果を知ることができ、非常に良い刺激を受けることができました。これからも、研究集会等で身に付けたアイデアを十分に生かし、研究を進めていくよう努力したいと思います。

研究課題　多重ゼータ関数の負の整数点での値について
代表者名　小見山尚(D1)

ストラスブール大学での研究発表

この学生プロジェクトでは6月にフランスを歴訪しました。まずストラスブールへ行き、6月19日にストラスブール大学で行われたセミナー"Séminaire Quantique"で代表者の修士論文の結果について、1時間程の講演を行いました。英語による発表で、質問が聞き取れなかったりと辛い結果になりましたが、今後のために良い経験になったと思います。また、6月の26日から30日にかけてルミニにあるCentre International de Rencontres Mathématiquesにて行われた研究集会"Algebraic Combinatorics, Resurgence, Moulds and Applications"に出席し、情報収集や専門家との交流を行いました。現在まで、そこで出会った研究者らと議論を行っているなど、非常に多くの実りが得られたフランス訪問になりました。

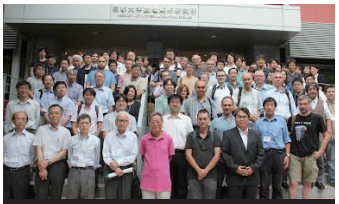
研究課題　グラフの連結度とカットとの関連性
代表者名　五明工(D2)

プロジェクトメンバー

本研究では、定期セミナーにおいてグラフの最大k-カット数の評価について勉強してきました。最新の結果としてV.Nikiforovによる評価があり、これを中心に周辺の関連概念についても確認しました。Nikiforovの論文では、グラフカット数の評価としては珍しい下からの評価が得られているが、我々はこの評価をさらにより良く出来ないかを課題の1つとして掲げて現在も研究中です。

また8月にはJcdcg_2017に参加し彩色数などカット理論と関連の深いグラフ理論の最新研究に触れました。ここで得られたことをまだ本研究に直接生かせてはいませんが、貴重な体験となりました。

研究課題　導来圏の構造の解析
代表者名　上田太朗(D1)


6月の研究集会の集合写真

これまでに"Algebraic Analysis and Representation Theory"(京都、6/26～30)、"The Prospects for Commutative Algebra"(大阪、7/10～14)、「環論および表現論シンポジウム」(山梨、10/7～10)に参加し、環論と表現論に関する情報収集を行いました。6月の研究集会では表現論に関する様々な分野の講演、7月の研究集会では可換環論についての講演を、10月の研究集会では主に環の表現論についての講演をそれぞれ聴きました。自分の研究分野に近いものもあればそうでないものもありましたが面白いと思える講演が多数あり、環論と表現論の発展を実感できました。これらの研究集会への参加で得られたモチベーションと膨大なノートを自分自身の研究に活かせればと思います。

研究課題　ゼータ関数の総合的研究
代表者名　梅澤瞭太(D1)

ゼータ若手研究集会のHP打ち合わせ

本プロジェクトの活動としてRIMS研究集会「解析的整数論とその周辺」や「福岡数論研究集会」といった研究集会に参加し、研究発表や情報交換を行いました。これらの研究集会を通して様々な人達との交流や意見交換を行うことにより、各々のメンバーの研究にとって大変有益な情報を得ることができました。

また、本プロジェクトの活動として来年の2月に「第11回ゼータ若手研究集会」を開催予定です。ゼータ若手研究集会は例年、ゼータ関数に興味のある学生や若手研究者が大勢参加し、活発な意見交換が行われています。

今年度もたくさんの若手研究者にとって本研究集会が各々の視野を広げる貴重な場となるように、開催に向けての準備を進めている所です。

研究課題　Lie群の表現論とそれに関連する話題
代表者名　磯脇勇太(D1)

研究集会の集合写真

5月末にランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学で開かれた研究集会"Representation Theory at the Crossroads of Modern Mathematics"に参加し、表現論やその関連する話題について情報収集を行いました。幅広い話題に関する最先端の研究に触れることができ、知識を広めることができました。また世界中から参加された研究者の方々との交流を通して多くの刺激を受けるとともに、今後の研究に活かすことの出来るような話やコメントを聞くことができ、非常に多くのものを得ることの出来た有意義なものでした。

研究課題　Modular Shadows and Multiple Modular Values
代表者名　松岡勇気(D3)

研究集会グループ写真

本学生プロジェクトの活動の一環として、8月にデンマークのコペンハーゲン大学で行われた研究集会"Young Mathematicians in C*-Algebras 2017"に参加し、研究発表を行いました。

海外で発表をするというのは初めての経験で、発表前日まで原稿の英語を暗唱するなど準備に追われましたが、とてもよい経験と刺激になりました。

自身の研究に対しての有益な情報を収集できただけでなく、多くの同年代の研究者と交流を持つことができ、現在その集会で知り合った研究者と共同研究を行う計画が進行しています。

研究課題　代数的整数論と岩澤理論
代表者名　舘野荘平(D2)

学生プロジェクトの活動として、岩澤理論の創始者岩澤健吉先生の生誕100周年を祝う研究集会Iwasawa2017に参加させて頂きました。約10日間に渡る講演によって最先端の岩澤理論の話題に触れることができたことに留まらず、私個人もJohn Coates先生やOtmar Venjakob先生といった岩澤理論の著名な研究者の方々や国内外の同世代の学生達と交流させて頂き、自分が解決するべき問題も見つかり大変貴重な体験となりました。また、自主的に行っている演習問題を解くセミナーも整数論を専攻する学生達の交流の場にもなりそれぞれの基礎学力の向上に役立っています。秋学期もいくつかの研究集会に参加しまた視野を広げていきたいと思っております。

研究集会のグループ写真

研究課題　精密化された絡み目不変量の数理と物理Ⅱ
代表者名　亀山昌也(D3)

予定していたドイツへの出張はアメリカ出張と重なってしまったため中止となった代わりに サイモンズセンター、日本物理学会、KEKへ行き多くの研究者と交流、議論ができた。12月にも研究会へ行き講演を行なう予定である。

研究課題　関数体の多重ゼータ値における関係式について
代表者名　原田遼太郎(D1)

Brihanmumbai Municipal Corporation buildingにて

本プロジェクトではフランス、ドイツ、インドの三か国を尋ねました。フランスではストラスブール大学に滞在中の指導教員と、論文及び研究について打ち合わせを行うことができました。

ドイツではミュンスター大学での研究集会“Arithmetic of Function fields”に参加しました。関数体の数論に関する講演に参加し、海外の学生や研究者と交流を行いました。

インドではIISER, TIFRの両研究所に滞在し、先行研究者のThakur氏と、進行中の研究と今後の方向性について議論の機会をいただきました。また研究発表もさせていただき良い経験となりました。日本では同分野の研究者が少ないため今回のプロジェクトにおける海外滞在は非常に有意義でした。

特にインドでの研究交流をもとに新たな研究結果が得られたことは幸いでした。こちらは現在プレプリントとして執筆中です。本プロジェクトを支援くださった皆様に対し、ここに感謝いたします。

研究課題　Rotating Fluids and the stability of the Navier-Stokes-Coriolis equations with Ekman boundary layers
代表者名　李峰(D2)

Supported by the Students Project of Graduate School of Mathematics in 2017, I participated the RIMS Workshop on "Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics" and "Harmonic Analysis and Nonlinear Partial Differential Equations", which were respectively during July 3 and July 7 in Kyoto University. I really benefited a lot from the workshop, not only by some new ideas for my research topic, but the discussion with the specialists both Japanese and Abroad. All these does good to my research plan. Suggested by Prof. Takada Ryo who is from Kyushu University, I changed some of my research plan. It's really a good idea to support the students, especially the ones who are on their first step of the Academic career, to broaden the research horizons and to learn how to communicate with the specialists all over the world.

However, many thanks to Prof. Sugimoto Mitsuru for his kind back of my applications for the project and advice on my research plan. I think the workshops and public seminars are very helpful for researchers. They can change different ideas and get many interesting advice from each other. And I'm looking forward to attending the left symposiums of my support.

異言語での出会い

たとえば初めて海外へ行ったときの、あるいはふと異言語の中に身を置いたときの記憶を想起させられる瞬間が最近ありました。異言語に接し、その中で自分の行動や発言、考え方を改めて知る、二人から伝わるそのような緊張感には、なにか輝きを感じます。この夏初めて海外へ飛び立った多元数理学科の学生と、セルジュ・リシャール特任教授のインフォーマルセミナーへ積極的に参加されている数理学科の学生、お二人の貴重な経験をご紹介します。(佐藤公美)

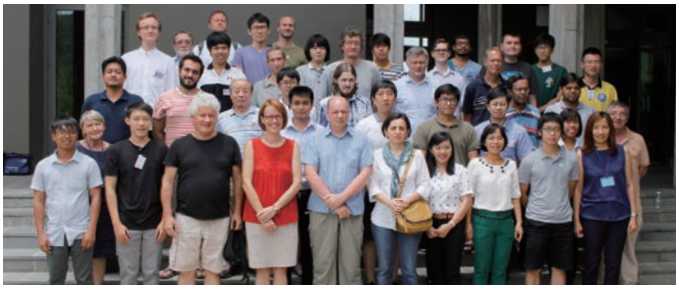
CIMPA Research Schoolへの参加

私は7月12から22日にかけて、ベトナム中部のクイニョンで行われたCIMPA research school“Noncommutative geometry and applications to quantum physics”に参加しポスター発表を行ってきました。この研究集会では、非可換幾何学の第一線で活躍する先生方による各トピックの入門的な講義、学生を中心としたポスターセッション、見聞小旅行などが行われました。参加した学生は数学系と物理系が半々という感じで、講義もそのような聴衆を想定して初歩的なことからスタートしていました。またクイニョンは南国のリゾートといった雰囲気の場所で、会場のICISE conference centerにもプライベートビーチがあり、休憩時間に研究者たちが海水浴を楽しんでいる姿が印象的でした。

実を言うと今回が私にとって初めての海外で、しかも初めてのポスター発表だったので、英語でうまく伝えられるのか、そもそも無事に帰って来られるのかなど不安を感じていました。しかし、講演者の1人であるJ. Kellendonk先生と初日にお話することができ、滞在中は食事やコーヒーブレイクなどの際に、自分の研究や今考えている問題、また講義内容などについて何度も議論をさせていただくことができました。このことをきっかけに、多くの研究者の方と会話することができ、自分の結果を宣伝するとともに様々なアドバイスを頂くことができました。

また、ルームメイトとなったベトナム人研究者の方を通じて多くの学生や若手研究者と親しくなり、講義の内容や互いの研究について情報交換を行いました。特にある韓国の学生とは互いの結果に関連があることがわかり、アプローチや手法を共有したり、新しい問題を見つけたりすることができました。毎朝、海水浴に行くために起こされることになったのは予想外でしたが、彼らのおかげで生活上の不便を感じることもなく有意義な時間を過ごすことができました。同年代の若手とこのような交流を持つことができたことは今後の研究生活での大きな財産になると感じています。

(井上秀樹(M2))

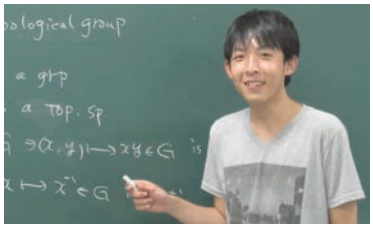

ベトナムでの研究集会集合写真

英語で数学

これまで私は英語で読み書きすることに慣れていても、話すことはほとんどしたことがなく、また分数や累乗などの英語での言い方も知らなかったので、Mix seminar(インフォーマルセミナー)に参加したての頃は苦労しました。しかし言い方がわからなくても黒板に書けば伝わるし、数学で使う英語表現は簡単なのですぐに慣れることができました。

また、別のインフォーマルセミナー、Introduction to functional analysisで扱われる内容に興味を持っていたので、話を聞きたくて参加しました。授業が英語で行われることに不安はありましたが、実際に授業を受けてみると話を完全には聞き取れなくても黒板に書かれていることから内容はつかめて、とても楽しく有意義なものでした。

授業は自分以外G30の学生で、彼らは授業中はノートをとるよりも話を聞き積極的にたくさん質問をしていて日本とは違った授業風景に驚きました。(津々直大(B2))


津々直大さん

同好の士とともに ― フレッシュマンセミナー ―

フレッシュマンセミナーは理学部1年生が行う自主セミナーです。今回お邪魔したクラスは、春からの継続クラスで、秋学期1回目ですでに打ち解けた空気でした。

チューターの大学院生はプリントを用意し、1年生を温かく見守ります。チューターにアドバイスを受けながらセミナーを進める1年生たち。フレッシュマンセミナーついて感じたことなどを話してくれました。

セミナーの内容は必ずしも、講義の理解を補助するようなものではなく、2年生で学ぶものの予習であったり、興味がある人しか学ばないようなものであったり。とにかく、単純に数学好きが集まっているんだ。という言葉が印象的でした。

理学部1年生はまだ分属前の段階なので、同じ理学部でも数学が好きかどうかを見極めるのは難しいらしく、このセミナーに参加することで同好者を発見することができた!と言っていました。

フレッシュマンセミナーは縦と横、両方の繋がりをつくるものなのだと感じました。

(片田栄里)

セミナー風景

留学生紹介

ミンガラーバー（こんにちは）
多元数理科学研究科では、10月にミャンマーから2名の留学生をお迎えしました。お二人は教育研究の充実と発展を図ることを目的とした学術交流協定にてヤンゴン大学から特別聴講生として入学されました。日本での生活を楽しみつつ自由で活気ある名古屋大学で勉学に勤しんでいるお二人に自己紹介をして頂きました。ちなみに多くの国で家族を表す姓がありますが、ミャンマーの名前は基本的に「名前」だけで姓がないそうです。

Hello! My name is Hein Ko Ko Zaw. I came from Myanmar and this is my second time having been in Japan. For this first time, I came here in 2017 and attended special course given at Graduated school of Mathematics from May 14 to 27. I got B.Sc(Hons:) degree in 2014 and M.Sc degree in 2017 from University of Yangon. I am attending Master of Research course with graph theory specialization at University of Yangon. Now I am studying linear algebra, calculus, complex analysis and graph theory at Nagoya University

Hello! I am Thandar Shwe. I came from Myanmar. I got my bachelor degree and master degree from University of Taungoo, Myanmar and master of research degree from University of Yangon, Myanmar. Besides, I am studying for Doctoral degree with the title of “Trace on Operators Ideal” at University of Yangon, Myanmar. Here I am studying topological vector space as a special research student under the supervision of Professor Shin Nayatani. Moreover, I am learning linear algebra, calculus and complex analysis which are lectured by Professor Yoshifumi Kimura, Professor Hiroaki Kanno and Professor Kotaro Tsugawa. I am very grateful to Professor Shin Nayatani and the professors mentioned above. It is the wise choice for me studying here and I hope I can improve my skill.

ミャンマーの美しい衣装を身につけた Thandar Shweさん、そしてHein Ko Ko Zaw さん　お二人とも笑顔が素敵なとても親しみやすい雰囲気の方です。数理学で有名な名古屋大学で指導を受けて学びたいと来日し、卒業後は大学の教員になることを目指しながら日々過ごしていると伺いました。こちらでの生活も少しずつ慣れて楽しんでいるようにみえるお二人。
これからのご活躍を心より期待しております。
（生田裕子）

左からHein Ko Ko Zawさん　Thandar Shweさん

第14回 留学生交流イベント ～ ミニ　プレゼンテーション ～

11月29日（水）15時から国際交流ラウンジにて留学生交流イベント「ミニ　プレゼンテーション」を開催し、留学生を含め沢山の皆さんにご参加いただきました。今回は参加者に自由なトピックスで発表していただきました。プレゼンテーションを通して、インドネシア・ミャンマー文化に触れ、異国地（名古屋）で留学生がどのような生活をしているのかを知り、そして楽しく英語を学ぶ方法を参加者全員で語りあう、とても有意義な時間となりました。様々な興味深い話に質問なども飛び交い、和気あいあいとした雰囲気の中、皆さん熱心に話に聞き入っている様子でした。
お茶とお菓子を楽しみながら和やかな雰囲気のなか会話も弾み、参加者それぞれが好奇心を刺激されている姿に胸が熱くなりました。プレゼンテーションの後、ギター演奏もあり、とても盛り上がった交流イベントとなりました。英語に興味を持っているがなかなか活用する機会がない日本人学生、そして日本のことを知りたい留学生の橋渡しとなるイベントになったと思います。

参加者の皆さん！本当にありがとうございました。そして今回参加されなかった皆さん！一緒に異文化交流してみませんか。
留学生のイベントは半期に1度行っています。「留学生とこんなことがしたい」「日本のこんなことを知りたい」などリクエストがあれば、是非、支援室まで。
（生田裕子）

プレゼンテーションの様子

大談話会・談話会

多元数理科学研究科では、2017年度11月中旬までに合計3回の談話会を開催し、いずれの講演も50名を超える方々に聴講いただきました。
講演内容は以下のとおりです。

7月12日（大談話会）：杉本充氏（名古屋大学大学院多元数理科学研究科・教授）
「制限定理と関連する偏微分方程式論の諸問題」
柳浦睦憲氏（名古屋大学大学院情報学研究科・教授）
「組合せ最適化～実践的解法を中心として～」
10月11日（談話会）：宮岡礼子氏（東北大学教養教育院・教授）
「ラグランジュ交叉のフレアホモロジーに対する部分多様体論からのアプローチ」
11月 8日（談話会）：沙川貴大氏（東京大学大学院工学系研究科・准教授）
「孤立量子多体系における熱力学第二法則」

講演者の専門分野全体の解説に始まり、講演者自身の直近の研究成果や研究動向にまで多岐に渡ってお話を頂戴することができ、大学院生だけでなく、専門外の研究者の方々にもお気軽に聴講いただける内容となりました。講演後の質疑応答では積極的に質問をされている方がいたりと、興味深い講演であったことが伺えます。大談話会終了後にはワインパーティーが開催され、それぞれ充実した時間をお過ごしいただけたようでした。異分野でご活躍される研究者のみなさまへ、今後も価値観共有の場をご提供できるよう、お力添できればと思っております。（山田美里）

ワインパーティーの様子

杉本充先生

柳浦睦憲先生

宮岡礼子先生

沙川貴大先生

ホームカミングデイ ―当日は生憎の雨―

名古屋大学ホームカミングデイは、卒業生／修了生の旧交を温めること、地域との交流を深めることを目的として、毎年10月第3土曜日に開催されています。第13回目となる今年は、『尖った情報技術、やわらかな人間社会』をメインテーマに取り組まれました。

今年の多元数理科学研究科の企画は、数理学科3年生5名が自作の「群論」に関するポスターについて発表をする「数学博物館を作ろう！」、そして現在上海の同済大学で教鞭をとる庄司俊明名誉教授による「暮しの中の数学」と題する講演でした。学生たちによるプレゼンはそれぞれ工夫された内容が紹介され、また講演は日常の暮しの中に現れる身近な例を通じて、数学的な見方、特に群論的な考え方について、一般の方にもわかりやすい内容で話されました。「数学博物館を作ろう！」のポスターはホームカミングデイ終了後1週間、多元数理科学研究科内に展示され多くの人に見ていただくことができました。

ホームカミングデイ当日は生憎の雨となってしまいましたが、いずれの企画も興味深い内容で、参加した方からは、「大変楽しませていただきました」と感想がありました。(小崎和子)

数理学科3年生によるプレゼン

庄司俊明名誉教授の講演

第6回飛田賞受賞者決まる

多元数理科学研究科出身の若い研究者に対して、数理科学同窓会から贈られる名古屋大学数理科学学生奨励賞「飛田賞」の第6回受賞者が川上 裕氏(金沢大学理工研究域数物科学系)に決定しました。「曲面の幾何学、特にガウス写像の値分布論」に関する優れた成果を認められたものです。授賞式は10月21日(土)に開催された第13回名古屋大学ホームカミングデイの折りに執り行われ、数理科学同窓会長から表彰状、楯、副賞が贈られました。

川上 裕氏は受賞の喜びを次のように語りました。(小崎和子)

> この度は第6回飛田賞を頂きまして有難うございます。研究テーマである「ガウス写像の値分布論」は幾何学と函数論を跨ぐもので、多元数理科学研究科で培った学力のおかげで、研究を更に発展させることができたと思います。最後になりますが、お世話になった皆様にこの場をお借りして深く感謝を申し上げます。

飛田賞に関する詳細は
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/alumni/hida-prize.html　をご覧ください。

第6回飛田賞授賞式　(中央　川上裕氏)

研究科の活動を支える各種同窓会
―アクチュアリー同窓会、メーカー・IT系同窓会、ホームカミングデイ同窓会―

多元数理科学研究科の学生のための就職支援は、数理科学同窓会の継続的な活動にも支えられています。業種別に行われているアクチュアリー同窓会、メーカー・IT系同窓会もそれらの活動の一環です。アクチュアリー同窓会は2011年に前身を発展させる形で再組織され、メーカー・IT同窓会は2016年に初めて開催されました。OBOG、在学生、教員が参加し、異なる業界で活躍している人たちとの交流により、情報交換／意見交換をしています。ここでの出会いを通じて就活の視点が広がり自身の職業選択に繋がった学生もいます。

こうした同窓生の継続的、献身的な活動によるサポートは、一朝一夕に成るものではなく、多元数理科学研究科の貴重な財産です。

今年度もアクチュアリー同窓会は7月7日(金)に、メーカー・IT系同窓会は8月4日(金)に、いずれも東京で開催されました。また、これらを統合した形で、ホームカミングデイ同窓会が10月21日(土)に名古屋で開催されました。(小崎和子)

アクチュアリー同窓会　東京・銀座にて

卒業生講演会
―考えよう 数理科学のキャリアパス―

初めての試みとして「卒業生講演会　―考えよう 数理科学のキャリアパス―」が11月1日(水)に開催されました。数理学科・多元数理科学研究科を卒業／修了して活躍しているOBOGたちの進路選択の際の体験談を通して、数理学科、多元数理科学研究科に在籍する学生、およびこれから数理学科への進学を考えている学部1年生が、数理科学を学んだその先のキャリアの可能性について考える機会とするものです。

民間企業への道を選択した平子祐記氏(アイシン・コムクルーズ株式会社)は、「就職のために修士に進学し、自己分析、自分の希望の整理、同窓会でのOBOGとの交流などを通して、スペシャリストとして働ける現在の会社と出会った」と具体的な就職活動プロセスを混じえて講演しました。

また、木村杏子氏(静岡大学理学部 講師)は、多元数理科学研究科の教育システム、活動的な研究者との交流による研究の広がり、「3年後の自分のために今できることは何か？」という先輩の言葉などに支えられて研究者の道を歩み続けていると語りました。

引き続きこのような企画をと期待する声もあり、さらに充実した内容で開催される予定です。(小崎和子)

体験を語る平子氏(左)、木村氏(右)

多元数理科学研究科より

入試情報

名古屋大学大学院多元数理科学研究科博士課程

前期課程（第2次募集）　2018年 2月6日（火）

後期課程（冬期募集）　2018年 2月7日（水）

願書受付期間

2018年1月4日（木）～2018年1月18日（木）
（但し土日祝日と1月12日（金）を除く）

お問い合わせ

名古屋大学大学院多元数理科学研究科教育研究支援室
電話: 052-789-2835　E-mail: exam18@math.nagoya-u.ac.jp

博士後期課程については願書受付締め切りまで個別相談も受け付けていますので、個別相談を希望される方はexam18@math.nagoya-u.ac.jpまで、電子メールでご連絡ください。相談の日時は、指導・面談を希望する教員の都合も勘案して調整します。遠方の方については、こちらから教員が出かけるなど状況に応じた対応を検討します。翌年度の入進学を考えておられる修士1年次の方も歓迎します。

数理学科説明会　11月1日

理学部学生は、1年次には学科に属さず、1年終了時に、希望や成績などによって各学科への配属が決定されます。2年次以降は各学科に分かれて、より専門的な科目を受講します。

その学科分属に先立ち、数理学科説明会を行いました。

教務委員長が、進級後の具体的なカリキュラムや学習環境など学習面について、卒業後の進路などについて説明し、あわせて、実際に数理学科に所属する学生3名が、就職・教職・進学それぞれについての体験を講演しました。

（片田栄里）

学生による体験談（川満慈樹さん）

「名古屋大学はどんなところ？」オープンキャンパス　8月10日

OPEN CAMPUS 2017 が、8月8日・9日・10日の3日間にわたり開催されました。

初日は台風の影響で、予定していた企画の一部を中止した学部もありましたが、理学部企画が行われる最終日には天気も回復し、例年通り暑い1日となりました。多元棟1階ロビーに設営した受付で、私たち支援室メンバーと修士の学生とで来場者をお迎えしたのですが、高校生たちのワクワクした表情に元気をもらうことができました。

数理学科の企画として、今年も「大学で学ぶ数学についての紹介と質疑応答」をテーマとしたプレゼンを実施し、多元棟で一番大きい講義室を埋め尽くすほどの多くの方が参加してくださいました。

プレゼン後の質疑応答の時間には、数理学科出身の在学生に質問したい参加者が列を作っていました。実際に学生生活を送っている先輩の生の声は、きっと進学を考える際の参考になったことと思います。

（片田栄里）

質疑応答のひとコマ

就職進学説明会　10月18日

多元数理科学研究科では、毎年、翌年に卒業・修了を控えた学生を対象に、進路に関する説明会を開催しています。

進路を大きく"企業への就職""教職""大学院への進学"に分け、多元数理科学研究科の教員と名古屋大学学生相談総合センター就職相談部門のキャリアカウンセラーによる講演を行いました。

教員らの講演のほか、今年実際に就職活動・大学院入試・教員採用試験を経験した学生4名が体験談を話してくれました。

（片田栄里）

学生相談センター就職相談部門・船津静代先生による講演

教育研究支援室より

私は名古屋大学の風景が大好きです。豊田講堂から中央図書館にかけては芝生広場や緑地帯が整備されており、グリーンベルトと呼ばれています。地下鉄の駅から地上に出るとすぐに目に入る芝生や季節の花々を見るたびに開放的な気持ちになります。

豊田講堂のすぐ北側、芝生広場の横の細道を抜けると多元数理科学棟があります。アクセスの良い場所ですので、多元数理科学研究科のことでお困りのことや知りたいことがあったら一階の教育研究支援室にお気軽にお立ち寄りください。（貝塚穣）

編集後記

今年5月から多元数理科学研究科教育支援室でお世話になっています。今回Newsletterを担当することになり入職前のことを思い出しました。どんな活動をしているのか、どんな雰囲気なのかを知りたくて、ホームページ掲載のNewsletterに目を通しました。実際に入ってみると、支援室の仕事は多岐にわたり、1年を通してさまざまな行事があり、先輩方、先生方から教えていただくのはもちろん、学生の方からも学ぶことがたくさんあります。

今回担当させていただき、手に取っていただいた方に、多元数理科学研究科の様子がよりみなさんに伝わればと願っています。（安井秀美）

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL (052) 789-2835　FAX (052) 789-5397

企画編集　教育研究支援室

これまでに発行されたNewsletterのバックナンバーが
多元数理科学研究科ホームページからPDFファイルにてダウンロードいただけます。
Newsletterバックナンバー
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/archive/newsletter/